



受け継がれていく清四小のバトン 一新年度へむけて充実の春休みを!!

副校長 佐々木 光治

校庭の桜の蕾もふくらみ始め、いよいよ本格的な春の訪れを感じるようになりました。清瀬四小は、昨日、令和5年度の修了式を執り行い、それぞれの学年の教育課程を無事に修了することができました。

本日の卒業式では、34名の6年生が厳かに決意の言葉を述べ、心も身体も成長し、堂々と立派な姿で清瀬四小を巣立っていきました。6年間積み重ねてきた学び、仲間と築き上げた絆、そしてかけがえのない経験に自信と誇りをもって、中学校でも元気に自分らしく活躍していくことを心より願っています。また、在校生を代表して参加していた5年生の態度もたいへん素晴らしいものでした。引き締まった表情、心のこもった言葉、決意を込めた歌声、入退場時のリコーダー伴奏など、一つ一つの動きから最高学年としてのバトンを受け継ぐ重みを感じながら、自分たちの役割をきちんと果たそうという真心と自信が伝わってきました。

卒業生にとっては、小学校最後の学びの場として、5年生にとっては、一年後の自分を重ね合わせ、これからの決意を胸に刻む貴重な場にすることができたことと思います。人にとって、出会いや別れは大切な経験となります。卒業式が児童の成長の場面として特別なものと改めて感じました。5年生一人一人は、今日の卒業式に在校生を代表して参加した経験を通して、来年度はさらに立派な最高学年として頑張っていくことでしょう。

また、一年前、胸を躍らせて保護者と手をつないで入学式を迎えた一年生は、今ではしっかりした足取りで元気に登校し、毎日の学校生活を楽しんでいます。もうすぐ上級生として新入生を迎え、支える心構えもできている様子です。2年生以上の児童も、行事や学習、にこにこ班やあいさつ隊など様々な活動を通して、大きく成長した一年間でした。昨日の修了式を終え、児童は進級への自信や自覚をもって、「あゆみ」を持ち帰っています。まずは、ご家庭でお子様と一緒に一年間を振り返り、児童の頑張りを認めてあげてください。「できるようになったこと」「努力したこと」など、様々な視点からお子様の成長を確認し、具体的な言葉で伝えていただければ幸いです。

さて、明日から約2週間の春休みが始まります。そして、4月には新しい学年になり、新たな友だちや先生との出会いが待っています。その出会いを素晴らしいものにするために、期待を膨らませながら日々を過ごしてほしいと思います。保護者の皆さまには、お子様が毎日を大切に過ごし、新たな目標をもって新年度を迎えることができるよう、励ましやお声かけをお願いします。

今年度、保護者・地域の皆様には、本校の教育推進のためにご理解・ご支援を賜りました。そのことに心より御礼申し上げ、年度末のご挨拶とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

新6年生による入学式準備（前日登校）

入学式の会場設営や新年度準備等を行います。

日時：令和6年4月5日（金）

集合：8時45分（体育館）

○持ち物…うわばき、雑巾

○下校…11時30分頃

始業式について（新2年生～新6年生）

日時：令和6年4月8日（月） 通常どおりの登校

○校庭に集合（雨天時、体育館に集合）

○持ち物…うわばき、連絡帳、筆記用具

※下校時刻は9時10分頃です。（2～5年生）

※6年生は入学式参加のため、下校は11時30分頃です。

春休みの課題

修了式で学校長から、春休みの意味と、そのためにやった方がよいことの話が3つありました。

- 一つは、「本をたくさん読もう」です。学校では「読書貯金」に、読んだ分のページ数を記録してきました。まだ目標ページまで到達していない人がけっこういるようです。ぜひ、読書に挑戦してほしいと思います。
- 二つには、「クロームブックを使って学習しよう」です。全員クロームブックを持ち帰りました。特に「ドリルパーク」を使って「漢字」や「計算」の力を高めることに挑戦してほしいと思います。
- 三つには、童話「ウサギとカメ」の話から、「どうしてカメが勝ったのか？」という理由を考えてくることです。これは「考える力」を養います。理由も1つだけでなく、2つ3つと考えられると良いと思います。

以上、ご家庭で励ましていただければ幸いです。

令和5年度卒業式

～写真で見る卒業式特集～



薫風かおるこの武蔵野の大地に、巣立ちの時を迎えた凛々しい清瀬第四小学校の卒業生の皆さん、誠におめでとうございます！今、お一人お一人に、心の中で「おめでとう」と祝福を送りながら、授与いたしました。

そのお子様の成長を一番喜んでいらっしゃるのが、本日温かい眼差しで見守っていらっしゃるお家の方、保護者の皆様です。その感慨もひとしおのことと存じます。6年間の義務教育はあっという間だったかもしれません。愛情の翼で毎日毎日労をいとわずにお子様への支えと励ましがあったればこそ、ここまで立派に成長したのだとつくづく感じます。重ねておめでとうございます。

また、本日は、日ごろから本校児童の安全・安心を地域で見守ってくださっている方々が、右手にお越しくださっています。「地域なくして健全な成長なし」と常々思っているところです。新型コロナの最中もずっと見守りを続けてくださいました。本日はご多用のところ、晴れの卒業式にご参列いただきまして誠にありがとうございました。

5年生の皆さん！皆さんは在校生代表として、憧れの6年生の姿を、その目でしっかりと心に焼き付けてください。

6年生の皆さん、改めてご卒業、おめでとうございます。

現在、いろんなところで人生100年といわれる時代です。みなさんの6年間は、この先の人生の土台づくりの期間でした。頭を鍛え、体を鍛え、心を豊かにしてきた6年間でしたね。そのみなさんに、はなむけの言葉を一つ送ります。

「3つの坂」の話です。人生には、「上り坂」、「下り坂」、そして「まさか」があります。この「まさか」にも「大きなまさか」から「小さなまさか」まであります。

そういう「まさか」に出あったときに、皆さんはどうしますか。「どう生きますか」？人生は思い通りにはいきません。「あのとき、ああすればよかった…」という後悔のような気持ちがあったりします。それも「まさか」の一つだと思えます。

思い出してみてください。「まさか」コロナがきて、学校に行けない、友達にも会えない、そんなことは、誰も予想しなかったことでした。これは大きな「まさか」。

今日に限って、宿題ノートを忘れるなんて…、これは小さな「まさか」。

そんなとき、どうすればいいのでしょうか。

先日、隣の清瀬第四中学校の卒業式に参列しました。そのとき、校長先生から中学3年生の貴重な経験をお聞きしました。

それは、だいたいこういうことです。修学旅行の帰りの新幹線 昼の14:30頃のこと。急な大雨・豪雨に見舞われ、それがいつやむかわからない。電車が発車できなくなった。そしてなんと、そのまま7時間もの間、新幹線の中で閉じ込められてしまった。家に帰れない。食べるものもない、飲むものもない…。不安は募る一方、…、という「まさか」でした。これこそ「大きなまさか」。緊急事態です。

人間誰でも不安な気持ちが高まると文句も出てしまいます。しかし「先生、何か手伝えることはありませんか…」とか、「今、大変なのは、先生たちなんだ！自分たちのために動いてくれているんだ。」と話す生徒がいたそうです。勇気あるその一言が、皆の不安な気持ちを鎮め、冷静に行動するように導いている、そんな四中生の姿を想像しました。

私は「勇気をもって言えたその姿」に注目したいのです。これは「勇気」と同時に「優しさ」ともいえます。ひいては相手の立場になって考える「思いやり」でもあります。その人は、きっと「ありがとう」と感謝される人になっていくに違いありません。勇気、優しさ、思いやり、感謝。これらを豊かに持っている人が、幸せな人生を歩んでいくと信じています。

逆に、すぐにいらいらしてしまう人、文句を言ってしまう人、あきらめてしまう人、これでは、幸せな人生を創ることはできないでしょう。どんな「まさか」があっても、それに負けない人が幸せな人、頑張り抜く人が幸せな人だと、今までいろいろな人を見てきての、私の結論です。

皆さんと一緒に学んだ、あの宮沢賢治の『雨にも負けず』。その詩も暗唱しましたね。貴重なその言葉を自分のものにしました。皆さんが「まさか」に出あったときに、その言葉が皆さんを励ましてくれることでしょう。

どうか、「負けない心」で「負けない人生を送る」皆さんであってほしいと願っています。どんなに苦しくても、もうだめだと思っても「負けない心」です。そのことだけは頭の片隅に入れておいてください。

さあ、皆さん、いよいよ巣立ちの時が近づいてきました。その晴れ晴れとした姿を、心に秘めたその思いを、あの素敵な歌声に乗せて、この会場いっぱいに響かせてください。

今日の天気は、なかなかの卒業式日和。昨日、校庭の桜を眺めました。まだ「つばみ」でした。しかしあと1週間もすれば満開になることでしょう。

結びに、皆さんの前途を祝して、短歌を一つ添えて、私の式辞といたします。

「満開へ 秘めたる思いの つばみかな 無限の才能 真っすぐ開けと」